

令和3年度 「年度末学校関係者評価」(外部評価)

	<p>項 目 (重点としたものに○)</p>	<p>学校の目標達成状況及び学校の取組の適切さ、改善方策について等の意見 (外部評価者からの指摘を基に記載)</p>
<p>教育環境の 充実</p>	<p>①学校安全の推進</p>	<p>①地域(自治会、町内会等)との連携を、更に強めるとよい。 ③コロナ禍で昨年度に続き地域との協働事業は思うように進まなかった部分もあるが、学校ホームページの活用等で積極的に行えるとよい。</p>
	<p>②教育情報化の推進</p>	<p>③地域の方々の協力を得ながら学習を進めることにより、教員だけでなく地域の方々も一緒に児童の成長やがんばりを身近に感じることができ、サポートをしてもらうことで、よりよい学習ができる環境になると考える。 ○今年度、ハード面での安全性について気になることがあった。植え込み付近に大きな石や割れたレンガ、鉄棒付近にとがった固い枯れ枝など、大きな怪我につながるものは、早めに取り除く必要がある。</p>
	<p>③地域との協働推進</p>	<p>○「学校経営方針→自己評価→逗子市学校教育総合プラン(第Ⅴ期)評価シート→学校関係者評価委員会による他者評価→次年度の学校経営方針」の流れが確立できたことは、学校運営がPDCAサイクルに沿った適正な活動につながっている。</p>
	<p>④学校評価を生かした学校づくり</p>	<p>○コロナ禍で、学級経営方針に沿った教育活動の展開は容易なことではなかったことと思う。保護者・児童のアンケート調査から、学校への信頼や学校生活の安心を読み取ることができる。次年度に向け、教職員間で校内や地域の情報や教育活動を推進する課題を共有化していくことが大切である。</p>
<p>I 学習指導の 充実</p>	<p>①授業改善の推進</p>	<p>②規則正しい生活習慣を身に付けさせることは、大切であり評価する。 ③地域や専門機関による体験学習は、教科書と異なる知識の習得にもつながると考える。積極的に取り組んでほしい。 ③コロナ禍で予定を組むことが難しいだろうが、感染防止対策をされながら安全に行われていると感じる。普段体験できないことをクラスメイトと一緒に体験して、その貴重な体験がのちの学びに生かされることもあると思うので、引き続き体験できる機会を多く取り入れていくとよい。</p>
	<p>②健康体力づくりの推進</p>	<p>○ふれあいスクールに来室すると、最初に宿題をする児童が多い。その姿を見ていると、「その日の課題を済ませる」と</p>

<p>I 学習指導の 充実</p>	<p>③体験活動の充実</p> <p>④今日的課題への取組</p>	<p>いう学習に対する前向きな気持ちが表れていると感じた。</p> <p>○感染症対策を講じながら、創意工夫した研修を行ったことで、「主体的・対話的で深い学び」「体験活動の充実」「今日的課題への取組（SDGs）」などの実践を通じた授業改善によって、児童の学習意欲を高めていることが、アンケート結果から読み取れる。</p> <p>○児童のアンケート調査から、学習への姿勢や成果は概ね達成されているように思われる。全員参加の研究授業が実施できない中で、教職員それぞれが校内研究の成果を感じ取りながら、日々の教育活動を展開することが大切である。また、成果や課題が教職員の中で、日常的に共有化できるような工夫ができるとよい。</p>
<p>II 支援の充実</p>	<p>①支援環境の充実</p> <p>②安心できる居場所づくりと絆づくりの推進</p> <p>③問題行動対策・不登校対策の推進</p> <p>④幼・保・小及び小・中の連携推進</p>	<p>①教員の時間的余裕が少ない中、専門職に支援を求めることは大変よい。ただ、情報は学校全体で共有することが大切である。</p> <p>①特別支援学級の児童が、学校生活において様々な困難に直面すると思う。その一人一人の個性を理解していくとともに、対応する教員だけではなく学校全体で理解していくことが大切だと考える。</p> <p>②仲間づくりを積極的に行うことは、問題を少しずつでも解決できる大切なことなので、大変評価する。</p> <p>○ふれあいスクールに来た児童から、クラスで陽性者が出て自宅待機している話を聞く。決して悪者にせず「悪いのはウイルスだから感染した人を支えてあげる」といった発言もあり、学校側の配慮、教員の指導が行き届いていると感じた。</p> <p>○コロナ禍で小中連携を実施するのが難しい状況ではあるが、オンライン等の工夫で、授業見学や研修への相互参加など、負担のない内容で取り組めるとよい。</p> <p>○コロナ禍で、個々の児童に目を向けると、学習面・生活面における新たな課題が数多くあることだろう。大変難しいこととは思いますが、個々の児童の状況を把握し、学年等組織的に対応する工夫が必要かと思う。沼間小学校・沼間中学校の1小1中の特性を生かした小中連携を中核に据えた他校種交流を期待している。</p>
<p>III 学校組織の 充実</p>	<p>①学校・学年・学級経営の充実</p>	<p>②研究成果を教員間で共有化を図ってほしい。</p> <p>③感染症対策という課題が増え、教員の負担が大きくなったと思う。教員の負担、ストレス、疲労が少しでも軽減されるよう、一人で抱え込まずより一層チームまたは学校全体で協力し合いながら問題に立ち向かうことで、「信頼に基づいた</p>

Ⅲ 学校組織の 充実	②研究・研修の充実	指導」に繋がっていくのではないか。 ④1週または2週に1日でも、「ノー残業デイ」を設けるとよい。 ○感染症対策の続く今年度も、学校及び学級運営の大変さはいかばかりかと思う。その都度、状況に合わせて柔軟に対応していることだろう。その結果は、放課後天真爛漫に遊ぶ子どもたちの姿にある。
	③信頼に基づいた指導の推進	○教員定数の改善をはじめとした教育条件整備等の課題は、「働き方改革」とあわせて、教育行政が責任を持って取り組まなければならない。
	④働き方改革の推進	○コロナ禍で、学校・学年・学級経営の充実、研究・研修の充実、信頼に基づいた指導の推進に、教職員が成果を感じ取り、教育活動のさらなる充実に取り組むことを期待する。教職員一人一人の個性や能力が生かされている職場環境が、「働きやすい職場づくり」につながると思う。